

40

お名前	性別	満年齢	終戦時の年齢	現住所
まきの かずみ 牧野 和美	男性	76歳	10歳	富岡東部

富岡国民学校 5年生

① 8月15日は、どこでどんなことをしていましたか。

富岡国民学校で遊んでいた。大事な放送があるということで校庭にいた。

② 終戦のことを、どこで、どのように聞かれましたか。

校庭でラジオで聞いた。大人の人何人もいた。当時は、まだラジオを持っている家は少なかったので、集まって聞いたと思う。放送はよく聞こえたが、意味はよくわからなかった。

③ 敗戦を知らされた時の気持ちやその時の様子

大人の人が泣いていたので、日本が負けたと分かった。国のために命をささげることが当たり前とされていたので、がっかりしたと思う。

④ 体験の中で、子どもたちに語り伝えておきたいこと

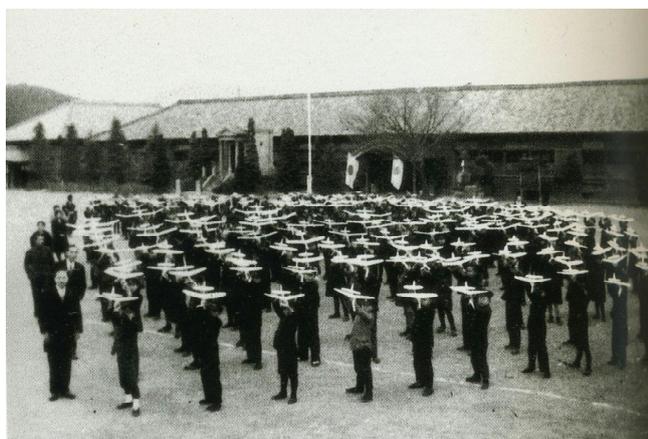
「富岡国民学校 墨ぬりのこと」

○ 部隊の駐留

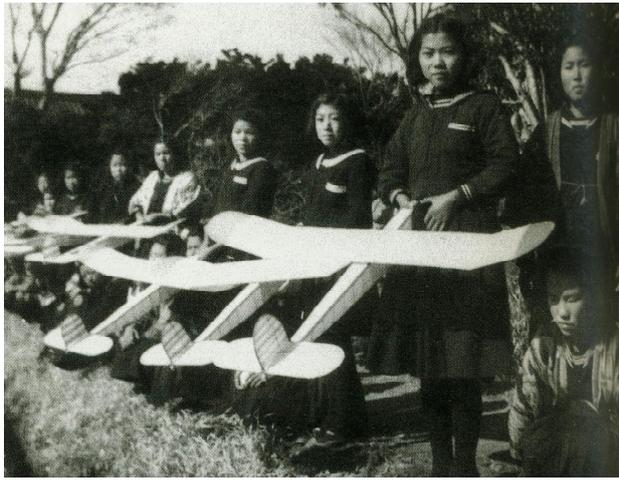
富岡に部隊が駐屯していた。最初は怒部隊で、富岡小の裏校舎（高等科）や講堂に宿泊していたと思う。怒部隊は、洞雲寺の裏の山に小屋を建て、軍馬を十頭以上飼っていた。馬で二輪の荷車を曳いて、前軍支援のために輸送するのが任務だった。鋭敏部隊は、満州から来て車神社に駐屯した。トラックやキャタピラーのついた装甲兵車を車神社の裏山に隠していた。兵士は車神社の芝居用舞台のあった建物に寝泊まりした。部隊長等の上官は、となりの浅見さんの家に宿泊していた。これが俳優の小林佳樹さんの部隊だった。兵士たちは、上官たちに隠れて時々食糧をもらいに近所の家を回った。

○ 軍事教練のこと

私は小学校3年の2学期まで名古屋にいたが、昭和19年になった3学期から富岡に来た。昭和20年4月から担任は野沢安虎先生になり、軍事教練をよくやった。巻きわらで人形を作り、竹槍で突く練習をしたり、竹槍や木銃をかついで宇利峠近くにあった（今のライスセンターの所）忠魂碑（後に八名幼稚園横に移された）まで歩いたりした。アメリカ軍が上陸して攻めてきた時の守りをするための訓練だった。駐屯していた軍人さんも指導し



▲ 模型飛行機づくり 昭和18年 富岡国民学校



▲ 女子も飛行機づくり 昭和18年 富岡国民学校

てくれた。「アメリカ兵は背が高いから上に向かって刺せ。」と言われたことをよく覚えている。5・6年生で実施したと思う。他には、歩伏訓練や隊列訓練などがあった。

6年生になると、模型飛行機を作ることができた。自分はそれを楽しみにしていたが、終戦になって作ることはなくなった。

当時の小学校は、運動場がイモ畑になっていた。サツマイモは、学校の給食などで食べたりしたと思う。このころは、子どもも大事な人手だったので、田畑の仕事をよく手伝った。

学校では農繁休暇があつて、田田えや稲刈りの時は、一週間ぐらい休んで手伝った。子どもは労働力として期待されていた。

### ○ 墨ぬりのこと

終戦後しばらくすると、先生の指示で教科書に墨をぬらされた。5年生の時だったが、国史や地理の教科書をぬらされたのでとても残念だった。国史も地理も5年生になって勉強できる教科で、まだ少ししか習っていない時だった。私はどちらも楽しみにしていたので、本当に残念だった。

戦争で負けたことで、これまで習ってきたことが間違いになってしまった。敗戦のみじめさを感じさせられた。国語や算数も、軍艦や兵士など戦争にかかわるところを墨でぬらされたことを覚えている。

### ○ 遊びのこと

集団で、外で遊ぶことが多かったので、自然と村の上級生や下級生とも仲よくなれた。遊びの内容は、大体次のようだった。

戦争ごっこ、川で魚とり、虫とり、カンけり、かちん玉（ビー玉）、パンゴ（メンコ）、陣とり、クギとり、竹馬、魚とり、キノコとり 等々

### ○ 給食のこと

当時の給食は、1カ月に1回あるかないかという程度で、今のような給食ではなかった。給食がある時は、先生から野菜を持ってくるように指示があり、みんなでナスやダイコンなどを持ち寄って、みそ汁を作ってもらった。保護者がみそ汁作りの手伝いに行ったようで、私のおふくろも手伝いに行った。ごはんは、いつも自分で持つてくるようになっていたので、給食といっても汁ものを作ってもらっただけだった。学校から近い中部や下宇利の子は、家に昼を食べに行った。大原や中村の子たちは弁当を持ってきたので、うらやましかった。

学校でイナゴをとりに行っていたことがある。みんなで捕まえたイナゴを袋に入れ、一日おいてフンを出させ、固い後ろ足と羽をとって大きな釜でゆで、つくだ煮にした。給食でイナゴを食べたが、当時としては貴重なタンパク源だった。

### ○ 疎開について

5年生の時の同級生は65人いたが、そのうち10人（男子7人、女子3人）が疎開で来た子たちだった。疎開で人数が増えたため、5年生になってから二クラスになった。その時は、男女別のクラスになった。今では考えられないことだが、当時では、「男女席を同じうせず」の考えで、男女別学が主流だったので喜んだものです。疎開してきた子とは、みんな仲よく遊んだ。よく言われる疎開の子をいじめるようなことは、富岡国民学校ではなかった。

### ○ 学校での配給について

学生服や運動靴が配給だった。ところが数が少なく、生まれ順に支給されたので、2月生まれの自分まで順番が回ってくる前に、1年が終わってしまった。当時は、おじいさんが作ってくれたわらぞうりをはいて通った。遠足に行く時は、わらぞうりを1足持って行った。雨降りは、はだしで学校へ行った。

### ○ 子どもたちへ

学校で教えられることは絶対で、先生も厳しかった。教えられるままに勉強も訓練もした。それが、終戦と同時に180度方針が変わった。軍国主義教育から民主教育への転換で、私たちはとまどうことばかりだった。教える先生方もそうだったはずで、国の教育方針ですべてが変わることを体験した。

みなさんのように、平和で、ほしいものが何でも手に入り、言いたいことが自由に言える時代に生まれたことは最高に幸せだと思ってほしい。それが当り前ではなく、戦争時代を生きた人たちの必死な努力があったことも分かってほしい。

### すみぬり教科書

国民学校高等科「家事」の教科書  
軍事、宗教、天皇などについて書かれて  
いる部分にすみぬりが行われた。  
(協力…奥三河郷土館)

